

令和5年度

I 浜田養護学校の取組

研究主題

2カ年計画

「地域とともに
児童生徒の深い学びを支える
授業づくり」

～ ESDを通じて
児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

『浜田養護学校グランドデザイン』

浜田養護学校 グランドデザイン

令和5年版

使命 (スクール・ミッション: 存在意義、社会的役割)

- 子どもたちを自立と社会参加に導く 〈働く力・生活する力の育成〉
- 地域を知り、地域の人たちとできることを一緒に考え、行動し地域に貢献する児童生徒を育てる 〈地域と協働・地域貢献〉
- 障がいについての正しい理解を促し、子どもたちが地域で安心して生活できる環境を構築する 〈障がいの理解啓発〉
- 地域の特別な支援が必要な子どもたちが安心して学べるためのサポートをする 〈センター的機能〉

教育目標 児童生徒一人一人の自立と主体的な社会参加を目指し、生きる力や豊かな人間性を育む

育てたい資質・能力
(グラデュエーション・ポリシー)

知力

しっかりかんがえる

ふるまい

あいさつ おもいやり

協働力

ちからをあわせて

達成力

さいごまでやりとおす

貢献力

みんなのために

教育課程 (カリキュラムポリシー)

E S D (Education for Sustainable Development) 持続可能な社会の創り手の育成をめざす

未来のためにできること その一歩を はまようから



みんなが住みやすい町にしよう

(人権・福祉・消費・防災・健康・平和・労働)

自然を守ろう

(環境・資源・エネルギー・気候変動・生物多様性・海洋)

伝統文化を受け継ごう

(地域の文化財～石見神楽・郷土料理・方言・華道茶道・石州瓦・石州和紙～)

教育課程 (カリキュラムポリシー)

E S D (Education for Sustainable Development) 持続可能な社会の創り手の育成をめざす

未来のためにできること その一歩を はまようから



みんなが住みやすい町にしよう

(人権・福祉・消費・防災・健康・平和・労働)

自然を守ろう

(環境・資源・エネルギー・気候変動・生物多様性・海洋)

伝統文化を受け継ごう

(地域の文化財～石見神楽・郷土料理・方言・華道茶道・石州瓦・石州和紙～)

各教科等を含めた指導 教科別指導 特別活動 総合的な学習(探究)の時間

学習内容の選択性

- ESD 年間計画
- ・SDGs 達成に向けた取組
- ・各教科等での取組
- ・地域発信

学びの定着と深まり

- 体験的学び
- 繰り返しの学び
- 既習したことを応用した学び
- 主体的・対話的で深い学び

キャリア教育

なりたい自分をデザインし、磨き磨きをしながら夢の実現に向けて挑戦し続ける

- キャリアパスポート
- ・小学部からのキャリア教育
- 職場体験 職場実習
- 高等部コース制

寄宿舎

自分たちの生活を自分たちでデザインする

- 舎生会
- 舎行事
- 勉強会

地域活用

地域との連携・協働 ・地域から子どもへ ・子ども通から地域へ ・子ども通と地域が双方向 ・子ども通と地域の協働

HAMADA教育魅力化

・浜田市内県立学校、保幼小中、地域、企業、大学等との連携・協働

交流及び共同学習

・地域の保・小・中学校及び居住地校との交流

個別最適な学び(多様性・個別と集団)

個性を主とし実態に即した学びを保障する(ICT活用 実態に応じた学習集団)

自立活動

自立活動シートを活用した的確な目標設定とアプローチ

受け入れる子ども像(高等部) (アドミッション・ポリシー)

○夢や希望をもち、いろいろなことに挑戦しようとする生徒

○特別支援学校で学ぼうという気持ちのある生徒

『浜田養護学校グラウンドデザイン』 ～『本校で育てたい資質・能力』～

育てたい資質・能力
(グラデュエーション・ポリシー)

知力

しっかりかんがえる。

ふるまい

あいさつ おもいやり。

協働力

ちからをあわせて。

達成力

さいごまでやりとおす。

貢献力

みんなのために。

『浜田養護学校グランドデザイン』

『本校で育てたい資質・能力』 5つ 具体的な姿

浜田養護学校で育てたい資質・能力 (学部別到達目標)		R5.3.25				
資質・能力	知力	ふるまい	達成力	協働力	貢献力	
具体的な力	新しいことを学び、蓄えること。 しっかり(深く)考え、応用すること。	日本人が大切にしていること。 人々が安心できる所作。	任されたことあるいは、自分で決めたことを最後までやり抜くこと。	目標に向かって人と力を合わせて行うこと。	ある物事や社会のために役立つように尽力すること。	
要素	・思考力・判断力・問題解決力。 ・知識・技能・予測する力。 ・興味関心・言語力・批判的思考。 ・表現力・自己選択・自己決定。	・規範意識・あいさつ。 ・言葉遣い・礼儀・思いやり。 ・生活習慣。	・主体性・目標の設定。 ・やり抜く力・体力・意欲。 ・挑戦する。	・かかわる力・自己理解。 ・多様性の理解と受容。 ・コミュニケーション力(やりとり)。	・自分のこととして考える。 ・自分以外のために尽力する。 ・課題発見力・つながりを尊重する。	
小学部	低学年 *教員と一緒に	・様々な体験をする中で、物事を五感でとらえ、好きなひと、もの、ことを見つける。	・教員と一緒にあいさつをしたり返事をしたりする。 ・支援を受けながら身の回りのことをしようとする。	・教員と一緒にいろいろなことに挑戦したり、自分の役割に取り組んだりする。	・教員や友だちと一緒に、いろいろなひと、もの、ことにかかわる。	係の仕事や活動を通して、身近な人から「ありがとう」と言われる経験を積む。
	高学年 *一部支援を受けて	・経験を積み重ねることで、自分なりに工夫しながら活動し、さらに興味・関心を広げる。	・自分からあいさつをしたり返事をしたり決まりを守って遊んだりする。 ・部分的な支援で身の回りのことをする。	・自分の目標をもって挑戦したり、自分の役割を理解し、部分的に支援を受けながら最後まで取り組んだりする。	・教員や友だちに自分の気持ちを伝えようとして、相手の働きかけを受け止めたりして、一緒に活動する。	
中学部 *自分で考えたり相談したりしながら自分から取り組む。	・学習や生活上の課題に気づき、調べたり考えたり話し合ったりしながら、自分のできることをやってみようとする。	・学校生活や地域生活のルールやマナーを守り相手の気持ちを意識して行動する。 ・日常生活において、自分のできることに自分から取り組む。	・教員と相談しながら自分が達成可能な目標を設定し、やり過ぎたり、役割に責任をもって最後まで取り組んだりする。	・気持ちや考えを適切な方法で伝えたり受け止めたりしながら、友だちと1つの事を一緒に行う。	・学校や地域のために自分のできることを考え、行動しようとする。	
高等部 *自分だけでなく、周りの人のことも考えて、実行する。	・身の周りの事象に課題意識をもち、これまで身につけた知識や技能を活用したり、応用したりして課題解決に向けて取り組む。	・社会生活の中のルールやマナーを守り、誰もが安心して過ごすためのふるまいについて考え行動する。	・自分の目標を設定し、課題解決に向けて計画的に遂行し、振り返り改善しながら最後まであきらめずに取り組む。	・他者と考えを伝え合う中で、考え方の違いを受け止め相手のよさを認めながら、協力して物事を決めたり、活動したりする。	・学校や地域の一員として、課題解決のために何ができるかを考え自ら実践する。	
寄宿舎	・自らの生活を豊かするために、必要な知識や技能を学習会や日々の生活で身につける。	・場に応じたあいさつや思いやりを持った言葉づかいをする。	・目標に向かって挑戦し、振り返りながら、達成をめざして、取り組む。	・舎生会や部屋ごとに舎生同士で話しをしながら、自分たちの生活をデザインする。	・お互いの生活がよりよくなるように、みんなのために自分のできることを考え取り組む。	

ESDを教育課程の中心に ESDを通して浜養の5つの資質能力を育てる

地域資源(人・もの・こと)と連携して

教育課程(カリキュラムポリシー)

E S D (Education for Sustainable Development) 持続可能な社会の創り手の育成をめざす

未来のためにできること その一歩を はまようから



みんなが住みやすい町にしよう。
(人権・福祉・消費・防災、
健康・平和・労働)



自然を守ろう。
(環境・資源・エネルギー、
気候変動・生物多様性・海洋)



伝統文化を受け継ごう。
(地域の文化財～石見神楽・郷土料理・
方言・華道茶道・石州瓦・石州和紙～)

『浜田養護学校グランドデザイン』の実現に向けて


『浜田養護学校で育てたい資質・能力』

『ESDにかかわる本校の分類』

「みんなが住みやすい町にしよう」

「自然を守ろう」

「伝統文化を受け継ごう」

 …を踏まえて 私たちが取り組んでいること

地域と協働したESDの学習に

「主体的・対話的で深い学び」方で取り組むことで

『浜田養護学校で育てたい資質・能力』を育成する

研究の目的

児童生徒が主体的に地域活動に関わり、ESDを通じて課題意識をもち、解決に向けて思考していこうとする力を育むための有効な手立てを、授業づくりを通して検証する。

研究仮説

SDG`s に関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気づきや思考を見える化し、それを引き出すための手立てを工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

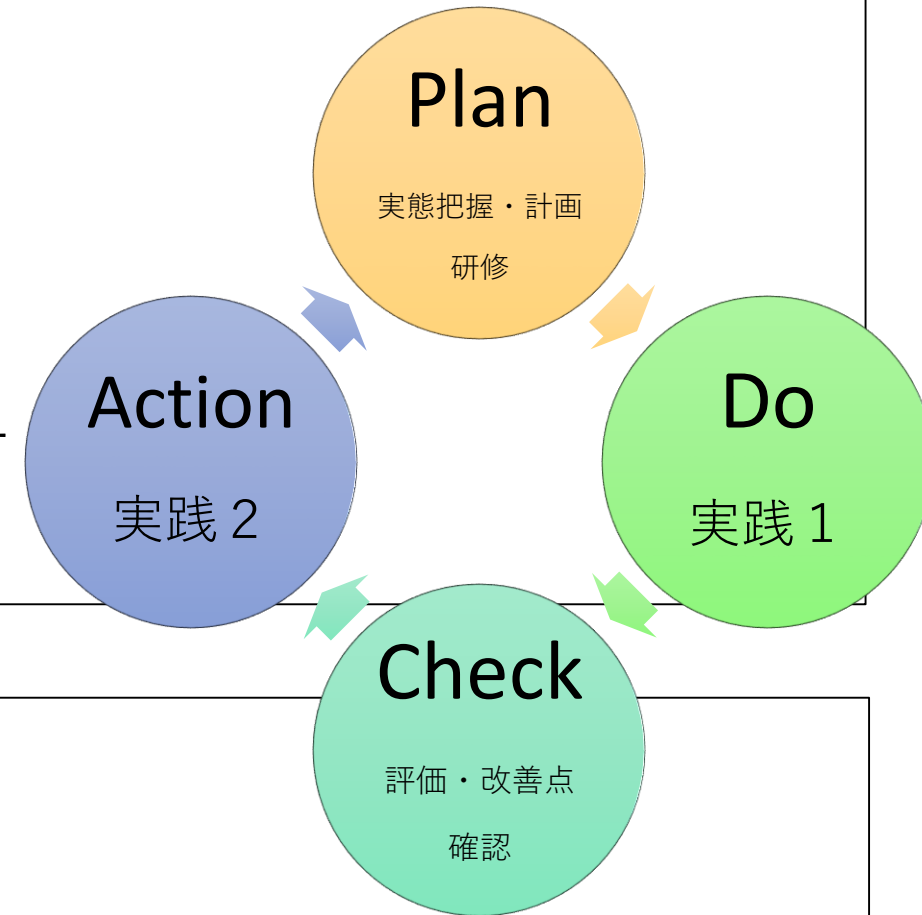
研究の方法

1. 各学部、寄宿舍を実践グループとする。
2. 毎月1～2回程度、学部研究会・舎研会を設け、グループで研究の方向性や実践について協議する。
3. 各学部においては、授業づくり・授業改善を目指した取り組みを行う。基本的に実践①を行い、授業改善ののち実践②を行う。
4. 全校研究会において各学部・寄宿舍の情報交換と実践の共有を図る。
5. 各学部・寄宿舍とも外部講師による指導助言を受ける。密案授業を後期に1回行い、授業研究会において協議する。
6. 地域連携センター・学習支援部と連携しながら実践を進める。
(地域連携コーディネーターの活用)

研究計画【2か年計画】

【1年次】

- ① 地域連携協働学習年間計画の確認
- ② 児童生徒の思考を引き出す活動の検討
- ③ 期待する 児童生徒の思考する姿の検討
- ④ 児童生徒の深い学びを支える手だての検討
- ⑤ 計画・実践・評価



【2年次（仮）】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。

指導案 単元の目標に、重点をおく視点を記載

『浜田養護学校で育てたい資質・能力』 『ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度』

○○学部○年○組 生活単元学習指導案

日時：
指導

1 単元名

2 児童・生徒が向き合う単元の主題

単元に取り組む中で 児童生徒が向き合っていく 主題・テーマ

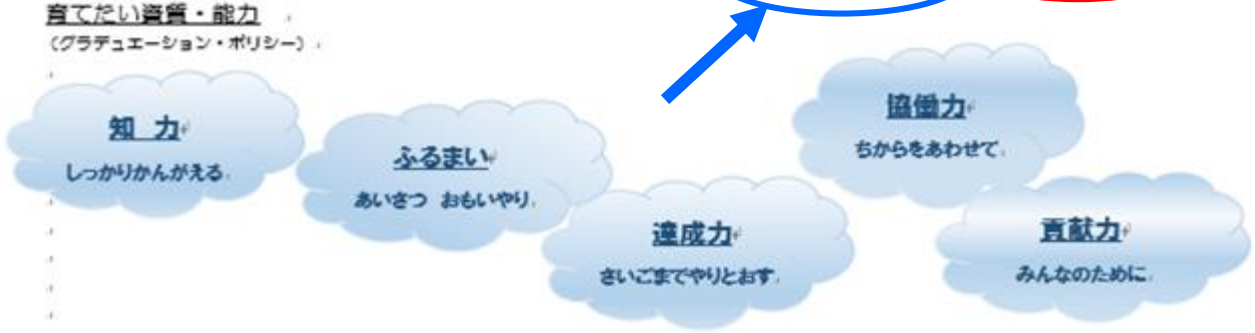
例) 「子どもも食べやすい」という視点から地域の食材の良さを取り、発信しよう!
例) どのように発信すれば、多くの人に浜田の魅力を知ってもらえるか?

☆「単元において 児童生徒が何を学び、何を考えてほしいか?」
教科の取り扱い等を検討する過程で、このことがぶれないように、思考判断表現(または深い学び)の視点から主題を書く。

3 単元の目標

例) ・地域の人と関わりながら改善に向けて自分たちにできることを考え、意見を出して取り組む。(知力・貢献力) (③・④)

単元は
ESDのカテゴリーの
何に取り組むか確認



持続可能な発展のための教育 (ESD) の 学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み

ESDの視点に立った学習指導の目標

教科等の学習活動を進める中で、

問題解決学習

「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、
それらを解決するために必要な
能力や態度を身に付ける」

ことを通して、
持続可能な社会の形成者として
ふさわしい資質や価値観を養う。

- #### 持続可能な社会づくり の構成概念(例)
- I 多様性
 - II 相互性
 - III 有限性
 - IV 公平性
 - V 連携性
 - VI 責任性

- #### ESDの視点に立った学習指導で 重視する能力・態度(例)
- ① 批判的に考える力
 - ② 未来像を予測して計画を立てる力
 - ③ 多面的、総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他者と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度

研究仮説の中の見える化を指導案展開部分で…

*ここまでを A4 2枚にまとめる

(3) 展開 **A3 也可**

深い学びを支えるために・・・


時間	学習活動 <行動>	支援			

児童生徒が本時の目標を達成のために必要な支援を必ず記載する

どの授業にも書くようなスタンダードな支援は、省力してもよい。ただし、自立活動の視点から個別に行う支援は記載するほうが望ましい。

トマトの良い調理方法は何か？

幼い子どもが好きな味は何か？



展開の吹き出しに、想定されるあるいは期待したい思考する姿を書く

- 【赤枠部分について】
- 想定または期待したい思考する姿に対する支援になっているか
 - 目標達成のための支援になっているか
- ・・・など、支援と、主題に向かう児童・生徒の思考を相互に確認することで、授業づくりが整理しやすいです。

Ⅱ 各学部 of 取組み

～ 各グループのページをご覧ください ～

- ① 小学部 of 取組
- ② 中学部 of 取組
- ③ 高等部 of 取組
- ④ 寄宿舍 of 取組

Ⅲ 成果と課題 次年度の方角性

取組みについて意識すること～

地域と協働したESDの学習に
「主体的・対話的で深い学び」方で取組むことで…

仮説～

期待する児童生徒の気づきや思考が見える化し
それを引き出すための手立てを工夫することで…

取組みの成果

手立て

引き出せた姿

社会に開かれた
教育課程

思考する必然性のある活動

思考の
見える化

思考の土台となる知識・技能を教える場面

思考のプロセスが見える化して（視覚的に）示す

学習
プロセス

友だちの考えが見える化して共有できるようにする

計画（企画）→実行→改善→再度実行
深い学びにつながるPDCAサイクルの明確化

思考するためのツールの工夫
学習過程に沿った 児童生徒の実態に合った発問

地域との活動に興味関心の広がり・期待感

他者との思考の共有による深い学び

新たな学習への意欲 活動への目的意思

最後まで取組む責任感

課題

取組みについて

- 地域の人・もの・ことと関わる学習活動の中での課題の設定（思考をする場面の切り出し）
- 児童生徒が思考を深めていく個々の手立て
- 思考をつなげる手立て

教員の意識として

- 活動ありきになっていなかったか
- 個々の児童生徒の思考の動きを想定し、思考を深めていける手立てをグループの教員間で検討できたか
- 発問の妥当性
子どもに伝わる言葉になっているか

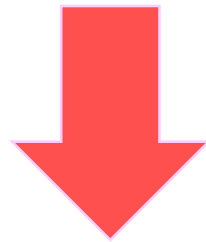
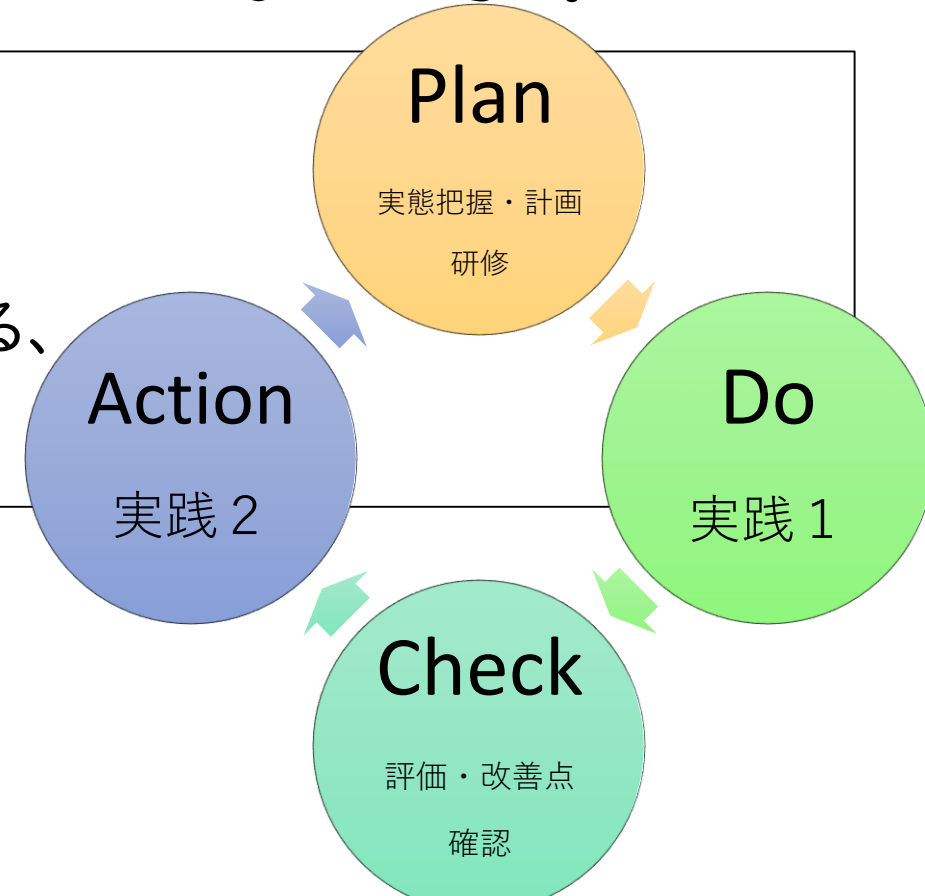
R6年度 2年次 (まとめに向けて)

R6年度の取組みの方向性

【2年次】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、
「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。



既習の学習内容や経験をつなげ、
考え続ける姿を引き出す手立てを整理する。

思考を深める手立て

思考する必然性のある活動

知識・技能を教える場面

思考するためのツールの工夫

思考の過程の見える化と共有

視覚的支援

伝わる発問
言葉かけ

思考する時間の設定

深い学びにつながるPDCAサイクル

グルーピング
ペアワーク

繰り返して見通し

選択肢の提示

待つ・任せる

振り返りの手立て

…などなど、あると思いますが

児童生徒、個々に応じた手立て、思考をほり下げる手立ては何か、学部研、舎研会で検討しながら授業をつくっていく

課題の設定について(今年度学習したこと)

「子供たちが考える」ために考えること

- 「考えがい」(考える値打ち)
- 「考えられる」(考えやすい)がある

授業力向上事業 丹治敬之先生 資料より

○ワクワクしながら取り組めそうな課題

○解決することが社会からも必要とされている課題(解決策を提案するタイプの場合)

○取り組むことが可能な範囲の課題(期間、設備、経費等)

総合的な探究の時間ガイドブックより 2特集「課題の設定」をどうするか ①課題を設定する際の留意点 より

何を思考するか、思考の場面をどこに入れるか
学部研、舎研会で検討しながら授業をつくっていく

ひきつづき、『地域連携協働学習年間計画』を活用して、地域のひと・こと・ものと連携して取組み

児童生徒一人一人への思考を深めるための手立てが、どのような姿につながったか

グループで変容を確認してまとめをしていく

指導案に
児童生徒の思考を
見える化しながら

外部の先生の
助言もいただきながら

授業者まかせでなく、
グループみんな
で取組む